

『外国人雇用の産業社会学』の執筆 ～公共性・社会的重要性・表現性～

日本学術振興会 特別研究員

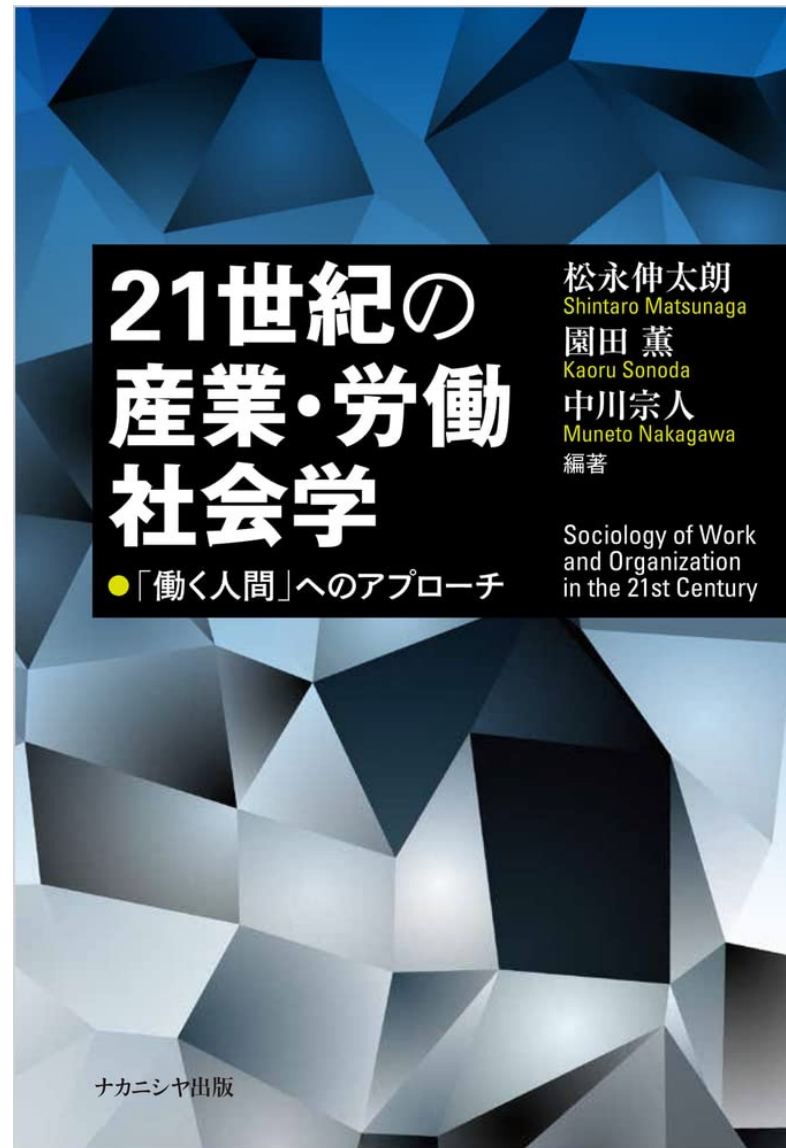
(法政大学PD)

園田薫

著者のプロフィール

- 1991年生まれ。東京大学 人文社会系研究科で社会学を学ぶ。2021年に博士号取得。
- 梅崎修のもとで学振PDに。来年がラストイヤー。
- ジェンダー・セクシュアリティ・構築主義を専門とする赤川学が指導教官。
- 指導教官の関心とは裏腹に、組織論を独学し、JILPTのOJTで労働調査を学び、企業研究の道へ。
- 尾高邦雄に始まる「産業社会学」を専門とし、昨年には『21世紀の産業・労働社会学』を刊行。

『21世紀の産業・労働社会学』



『外国人雇用の産業社会学』

外国人雇用の産業社会学

雇用関係のなかの「同床異夢」

園田 薫

The Fragile Employment Relationships
Sociology of Work and Organization in Regards to Employing Foreigners in Japan

外国人雇用の産業社会学

雇用関係のなかの「同床異夢」



園田 薫

なぜ、いかにして、 我々はすれ違うのか？

日本企業はなぜ、そしてどのような論理で外国人を雇用しているのか。
かたや外国人にとって「日本で働く」ことのもつ意味はいかなるものか。
外国人社員と日本の大企業との雇用関係に注目し、
その独特の関係がいかにして成り立ち、ミスマッチがなぜ起こってしまうのか、
双方への多角的な調査をとおして明らかにしていく。

有斐閣

有斐閣

著書の概要

- 日本の**有名大企業**とそこで働く**専門的外国人**の**雇用関係**について、双方の視点から検討した本。
 - 序章：外国人雇用の現状と課題
 - 第1章：外国人雇用を産業社会学的に考察するために
 - 第2章：外国人を雇用する**日本企業**の矜持と葛藤
 - 第3章：日本企業で働く**専門的外国人**のキャリア選択
 - 第4章：日本企業と外国人労働者の**雇用関係**はいかにして成り立つのか
 - 終章：**雇用関係**の分析がもたらす知とは

出版の経緯

- 出版社との直接的なツテがほとんどなく、博士論文の概要をまとめた企画書をもって、色々な編集者さんに直接売り込むことにした
 - 3社と交渉し、2021年9月に有斐閣を選択。

- 「出版助成がなければ刊行できない」と言われ、1年かけて本書を執筆しながら、2022年に東大と日本証券奨学財団の出版助成に応募した
 - 後者に採択され、2023年3月末に刊行(予定)。

出版の三要素

✓ なぜ有斐閣で出版することに決めたのか？

✓ 単著をどのように出版したいと考えたのか？

→書籍出版のもつ三つの機能から説明したい

◆公共性：パブリック・アーカイブとしての本

(= **出すことに意味がある**本)

◆社会的重要性：開かれた読者との共有物としての本

(= **読まれることに意味がある**本)

◆表現性：自由な自己表現の場としての本

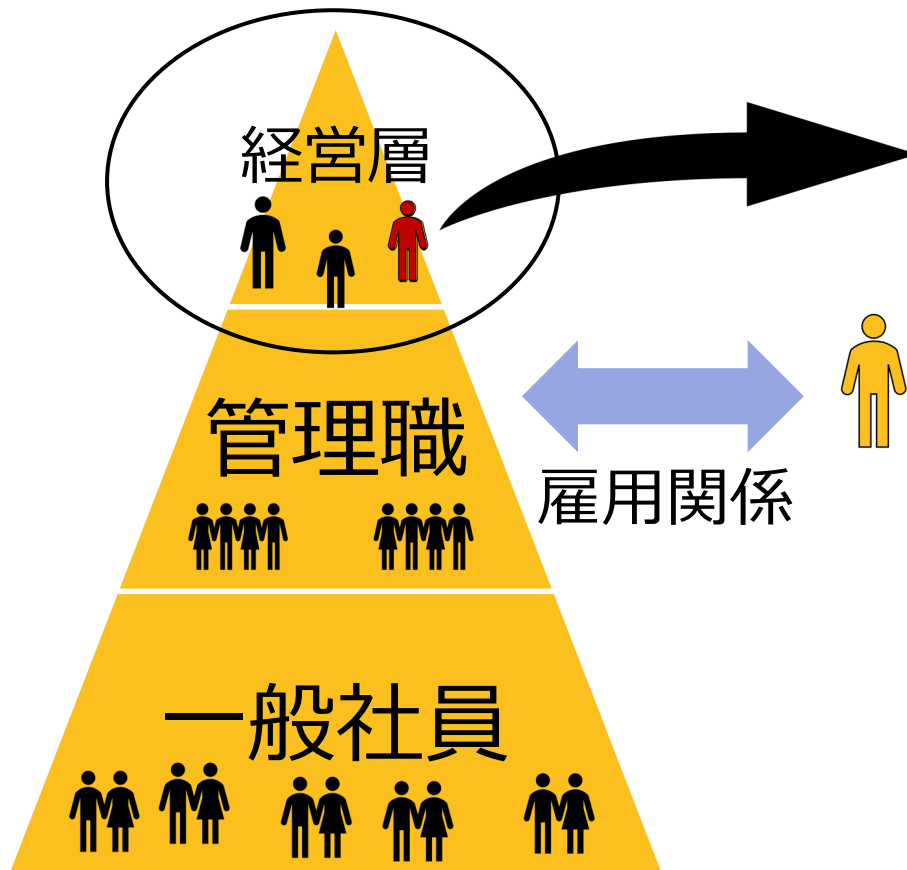
(= **書くことに意味がある**本)

出版の三要素

- ✓ 公共性にかかわる問題系：公表の「媒体」
 - なぜ博士論文のオンライン公表ではダメなのか？
 - 出版社Aのこだわり：すぐに博論を書籍化しよう！
 - ✓ 社会的重要性にかかわる問題系：読者の「対象」
 - 誰に向けて本を書くのか？（即時性・大衆性の問題）
 - 出版社Bのこだわり：より多く売れるための本を出そう！
 - ✓ 表現性にかかわる問題系：執筆の「内容」
 - なぜ投稿論文ではなく、書籍の長さで執筆するのか？
 - 有斐閣のこだわり：本でしか書けないことを出そう！
- 本書は、論文では削ぎ落とされる「豊かな雑味」を盛り込み、経営学の読者を意識して制作した一冊。

アピールポイント①企業の分析

① 外国人雇用を行う企業側の視点を相対化



- 外国人雇用について語る従業員は、どこまで組織との同一性があるのか？
- 外国人雇用の「意図」は、どのように調査可能か？



外国人雇用の戦略に関する経営層の語りを質的に分析

アピールポイント②外国人の分析

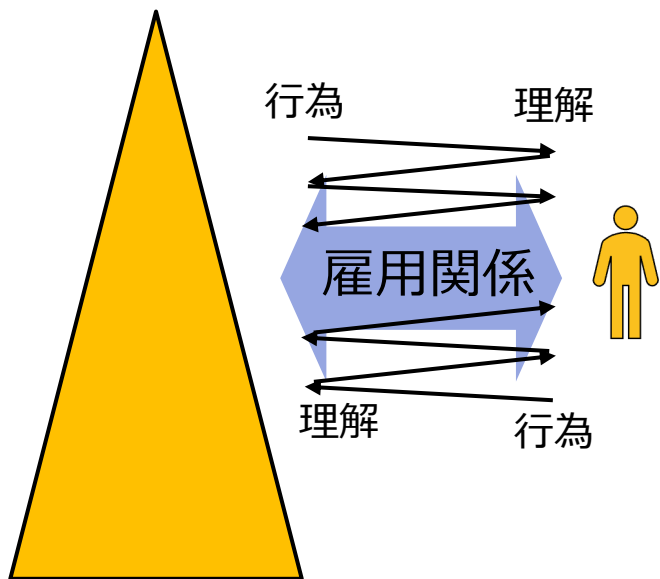
② 日本企業で働く外国人側の視点を相対化

- ✓ 「日本企業の慣行は独特で外国人に合わない」
- ✓ 「日本企業はオワコンだから人が集まらない」
- ✓ 「有能な外国人が日本企業で働くわけない」

→ 専門的外国人のキャリア・ダイナミクスに着目し、これらの言説が現実の一側面に過ぎないことを、彼ら/彼女らへのインタビューから明らかにした。

アピールポイント③理論的な射程

③ 意味にもとづく社会学の視点から理論化



- 関係を分析する、シンボリック相互作用論の視座を援用（ブルーマー、グレイザー・ストラウスの分析...）
 - 第2章：ウィク（、バーナード）
 - 第3章：シャイン（、ルソー）
 - ミクロな雇用関係は、マクロな環境への「理解」から生まれるとする
 - センスメイキング、動機の語彙
- 行為者の「理解」が分析の焦点に